

## 2014（平成 26）年度 経済学部自己点検・評価報告書 ラーニング・アウトカムズの測定状況

経済学部は、教育の質保証への取り組みとして、2014（平成 26）年度に以下のことを行なった。

### 【1】カリキュラム・チェックリスト（CCL）の更新

2014（平成 26）年度のカリキュラム改正に合わせて CCL の更新を行い、ラーニング・アウトカムズのために、各教科が適切に配置されているか、検討を行った。

### 【2】卒業生アンケートの活用

2014（平成 26）年 3 月の卒業式において、全卒業生（主に 2009 年、2010 年入学生）を対象にラーニングアウトカムズの達成についてアンケートを行った（資料 1 参照）。その結果、「数量的・統計的データを正確に理解することができる」について、「1. 大いにつけることができた、2. 多少力をつけることができた」の合計が 60.3%と 7 割を切る結果となった。2014（平成 26）年度入学生から、「経済数学入門」「基礎統計学」を必修とし、数量的・統計的データの学修課程を充実させたが、今後この成果をより効果的に測定しながら、さらに学部における数学、統計学の教育の充実させていきたい。

### 【3】再履修クラスの設置とその改善点の検討

近年の入学者の学力の多様化に対応し、2014（平成 26）年度より、経済学部教育の基礎となる「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の再履修クラスを設定した。同クラスでは、成績評価で S, A はつけず、その代わり、基礎的な内容を丁寧に教えるようにしている。履修者はそれぞれ 20 名程度である。学部教務委員会で、それぞれの担当者から以下の報告を受けた。

- ① 少人数の科目なので、一人ひとりに目が届き、効果的な学習を進めることができている。とくに、数学等の学力が不足していると分かった学生については、SPACE（学習支援センター）に連れて行き、講座を受講させたりすることもできている。
- ② 残念ながら、途中から出席しなくなる学生がいる。こうした学生には授業では手の施しようがない。

再履修クラスの設置は、一定の成果を上げているようである。今後は、このクラスの履修者の学習成果の追跡調査を行うと同時に、授業に来なくなる学生に対してどのような対策を取れるのか、さらに検討したい。

### 【4】「演習 I, II, III」の必修化

ラーニング・アウトカムズの第 5 点である「世界の多様性、および経済問題・社会問題の

多様性を理解し、適切な議論を行なうことができる」のために、2年後期・3年前後期に2014（平成26）年度より「演習 I, II, III」を必修化した。具体的な経済問題を、ディスカッションを通して学び、討議推進力を養うことを目標としている。

#### **【5】英語で専門コースを学ぶ SUCCEED 科目の提供**

ラーニング・アウトカムズの第4点である「経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる」という点について、学生が2年後期から履修する専門コースに、英語で専門科目の単位を履修できるカリキュラムを2014（平成26）年度生より開始した。

#### **【6】学部独自のFD実施**

第1回目は、2014（平成26）年10月10日に実施し、参加者は対象専任教員18名中15名（83%）であった。成績不振学生の減少を目指すため、成績向上にどのような指導法が効果的であるかを検討した。第2回目は若手教員を主体とし、2015（平成27）年1月24日に開催され、大学全体の長期計画であるグランドデザイン内容の確認と、その目標に対して、経済学部のビジョンと目標を審議した。第3回目として、2015（平成27）年3月12日には、学部発展のために中長期目標と教育・研究内容について、全員で審議をした。

資料1 2014（平成26）年3月 経済学部卒業生アンケートより

1. 数量的・統計的データを正確に理解することができる

1. 大いにつけることができた	29	12.5%
2. 多少力をつけることができた	111	47.8%
3. あまり力をつけられなかった	68	29.3%
4. まったく力をつけられてなかった	14	6.0%

2. 日本・世界の経済・社会的な知識を、入手し活用することができる

1. 大いにつけることができた	67	28.9%
2. 多少力をつけることができた	121	52.2%
3. あまり力をつけられなかった	27	11.6%
4. まったく力をつけられてなかった	4	1.7%

3. 日本語および英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる

1. 大いにつけることができた	52	22.4%
2. 多少力をつけることができた	115	49.6%
3. あまり力をつけられなかった	44	19.0%
4. まったく力をつけられてなかった	11	4.7%

4. 世界の多様性、社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる

1. 大いにつけることができた	52	22.4%
2. 多少力をつけることができた	134	57.8%
3. あまり力をつけられなかった	30	12.9%
4. まったく力をつけられてなかった	5	2.2%

5. 自らの行動を律し、他者と協力しながら、目的を計画的に実現できる

1. 大いにつけることができた	77	33.2%
2. 多少力をつけることができた	118	50.9%
3. あまり力をつけられなかった	18	7.8%
4. まったく力をつけられてなかった	7	3.0%

6. 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる

1. 大いにつけることができた	51	22.0%
2. 多少力をつけることができた	124	53.4%
3. あまり力をつけられなかった	38	16.4%
4. まったく力をつけられてなかった	6	2.6%